

〔共同研究〕

## 『仙芥集』翻刻①

中世東国仏教研究会

はじめに

『仙芥集』は、中世鎌倉の地で精力的な受法活動を行った真言僧定仙の受法記録である。そのテキストは管見の限り称名寺聖教（神奈川県立金沢文庫保管）にのみ伝存しており、当研究会ではこの称名寺聖教本を底本として翻刻研究を行っている。

称名寺聖教本『仙芥集』は全三十部という大部のテキスト群であるので、全体の翻刻、全貌の把握には時間を要する。研究会では各メンバーに担当するテキストを割り当てて翻刻作業を進め、その推敲を全員で行う形で、現在も継続して研究を進めている。

### 定仙について

前述のように『仙芥集』は定仙の受法記録を集成したものである。そこでまず、その定仙について概説したい。

定仙（一二三三～一三〇二）は、鎌倉亀谷の新清涼寺釈迦堂に住した真言僧である。称名寺聖教の目録によれば定仙の名が記された聖教は一二八点にのぼる。定仙の活動実態が窺える資料群としては最も纏まったものといえるだろう。この称名寺聖教中の定仙関係資料は文永十一年（一二七四）から正安三年（一三〇一）までの期間のものであり、そのほとんどが鎌倉の地における受法に関するものであり、定仙が鎌倉の地以外でどのような活動をしたのか、その足跡は見出し得ない。称名寺聖教の他、那須の仏法紹隆寺聖教や大須の真福寺文庫、大阪市美術館等に所蔵されている資料の識語にも定仙の名は見られるが、それらもすべて鎌倉での活動に関係するものである。

ただし、現時点では同一人物かは不明であるが、大分県臼杵市にある文永四年（一二六七）造立の石造九重塔の建立者銘として「定仙」の名が記されている。また、北条氏邸もあつた伊豆守山の麓にある真珠院の境内に定仙の墓があり、定仙所持本を弟子の定禪がやはり守山にある願成就院や満願院で書写していることなどを考えると、晩年一時的に伊豆に滞在した可能性も考えられる。しかし、確実な資料として見出し得る活動の実態は、鎌倉の地におけるもののみである。

定仙は、当時畿内より鎌倉に下向してきていた多くの人師より受法している。その法流は大まかに見ても安祥寺流・勸修寺流・地藏院流・意教流・理性院流・金剛王院流・西院流と多岐に涉っており、その受法に関する資料だけでも聖教・印信・折紙等、膨大である。

定仙の出自は明らかではないが、北条氏の本拠地であつた伊豆守山に墓があること。幕府のあつた鎌倉に住していたこと、さらに、経済的基盤を有さない新清涼寺釈迦堂に住しながら精力的な受法活動を行ひ得るだけの経済力・情報収集力があつたことなどを考えると、幕府中央に何らかのパイプがあつた人物、さらに言えば北条氏に何らかの縁がある人物であつたとも考えうる。

## 『仙芥集』について

前述のように、『仙芥集』は定仙の受法記録である。識語等によれば、建治三年（一二七七、定仙四五歳）から永仁四年（一二九六、定仙六四歳）までの約二十年間の記録となっている。

今回翻刻の底本としたのは、平成十八年に重要文化財に指定された神奈川県立金沢文庫保管・称名寺聖教のものである。同聖教には函番・函内通番・枝番が付されており、『仙芥集』は函番一三、函内通番一、枝番一から三二までとなっている。この枝番は資料管理上便宜的に付されたものらしく、本来の順番とは異なっていると考えられる。ただし、本研究においては作業上の混乱を避けるため、この目録の枝番の順序で翻刻を進めることとした。

今回は初回ということもあり、『仙芥集』の全体を概観するためにも『称名寺聖教目録』から、『仙芥集』の部分を挙げておきたい。

### [013 0001 012]

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙右上）廿三条内 （表紙中央）三宝院／大谷寛俊アサリ／神楽岳長慶／事  
記之 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釧阿 〔装丁〕綴葉  
〔紙数〕4紙8丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.5 22.2 〔行格〕11行×12行  
〔手沢者名〕釧阿（梵字）（表紙左下） 〔加點等〕訓点あり 〔保存状態〕修理済  
〔識語〕正應五年正月卅日記之、定仙 一交了、

【013 0001 02】

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙右上）廿三帖内（表紙中央）三寶院／青雨經法事／轉法輪法事／後七日多種護／加句事 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿

〔装丁〕綴葉 〔紙数〕4紙8丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.4 22.2 〔行格〕11行～12行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙左下） 〔加點等〕合点・訓点あり 〔保存状態〕修理済

【013 0001 03】

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙右上）廿三帖之内（表紙中央）三寶院／親玄法印説／四度加行／許可作法事／同本二本在之／愛染王次第四本／授之次第事

〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉 〔紙数〕4紙8丁 〔料紙〕楮紙

〔法量〕14.5 22.3 〔行格〕11行～12行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙左下）

〔加點等〕訓点あり 〔保存状態〕修理済 〔識語〕正應四年六月廿六日、承大殿法印御房口傳記之、定仙

【013 0001 04】

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙右上）廿三帖内（表紙中央）公然——果性不可説即是密藏本分事／無相修行間事／真言利益佛果利益事／顯教不知温育方便事／遮情円極不用真言表德事／真言無相不可落空見事／真言三形為如来本有德事／真言表德為真善妙有假事

〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕4紙8丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.5 22.3 〔行格〕12行～14行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加點等〕訓点

あり  
〔保存状態〕修理済  
〔識語〕正應三年正月卅日記之、定仙一交了、

【013 0001 05】

〔外題〕仙芥集  
〔角書〕（表紙右上）廿三帖之内  
（表紙中央）三寶院／親玄法印口伝／請雨經事／太元事／守護經事／愛染王次第事／白表紙受法次第  
〔本文残存状態〕完全  
〔書写者〕釵阿  
〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳）  
〔紙数〕6紙12丁  
〔料紙〕楮紙  
〔法量〕14.5

21.7  
〔行格〕11行～12行  
〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下）  
〔加点等〕合点・訓点あり  
〔保存状態〕修理済  
〔識語〕正應三年九月廿二日、親玄法印以日記示之云々、定仙一交了、

【013 0001 06】

〔外題〕仙芥集  
〔角書〕（表紙右上）廿三帖之内  
（表紙中央）三寶院／親玄法印口伝／三六院舍利事／自行次第事／妙竹事／大法秘法等事／如法愛染次第印相并口傳等／如法尊勝事／請雨經事／祖師開眼事／馬陰藏三昧地事  
〔本文残存状態〕完全  
〔書写者〕釵阿  
〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳）  
〔紙数〕8紙16丁  
〔料紙〕楮紙  
〔法量〕14.5 22.5  
〔行格〕10

行～12行  
〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下）  
〔加点等〕合点・訓点あり  
〔保存状態〕修理済  
〔識語〕正應三年九月廿七日、定仙記之、

【013 0001 07】

〔外題〕仙芥集  
〔角書〕（表紙右上）廿三帖之内  
（表紙中央）三寶院／不動法印相等／十四根本／施餓

鬼法不審／汀護广事／兼実卿如意珠観事／印相不審等

〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕 釵阿 〔装丁〕 綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕 6紙12丁 〔料紙〕 楮紙 〔法量〕 14.5 22.2 〔行格〕 12行 〔手沢者名〕 釵阿（梵字）（表紙右下）〔加点等〕 合点・訓点あり 〔保存状態〕 修理済 〔識語〕 正應三年十月五日記之、定仙

【013 0001 08】

〔外題〕 仙芥集 〔角書〕（表紙右上） 廿三条内 （表紙中央） 三宝院／并招魂法事／普賢延命法／仁王經／親玄僧正口傳 〔本文残存状態〕 完全 〔書写者〕 釵阿 〔装丁〕 綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕 4紙8丁 〔料紙〕 楮紙 〔法量〕 14.4 22.2 〔行格〕 10～12行 〔手沢者名〕 釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加点等〕 合点・訓点あり 〔保存状態〕 修理済

【013 0001 09】

〔外題〕 仙芥集 〔角書〕（表紙右上） 廿三条内 （表紙中央） 三宝院／大法并修法等／作法儀式等 〔本文残存状態〕 完全 〔書写者〕 釵阿 〔装丁〕 綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕 4紙8丁 〔料紙〕 楮紙 〔法量〕 14.4 22.3 〔行格〕 8～11行 〔手沢者名〕 釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加点等〕 合点・訓点あり 〔保存状態〕 修理済

【013 0001 10】

〔外題〕（仙） 芥集 〔角書〕（表紙中央） 三宝院／意教上人／御口傳等

〔残存状態〕完全 〔書写者〕鋞阿 〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕9紙18丁  
 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.6 22.2 〔行格〕10～13行  
 〔手沢者〕鋞阿（梵字）（表紙右下） 〔加点等〕合点・訓点あり  
 〔保存状態〕修理済

【013 0001 11】

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙中央）三宝院／親玄僧正等／御口傳（一）  
 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕鋞阿 〔装丁〕綴葉（3綴・横半帳） 〔紙数〕20紙40丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.6 22.3 〔行格〕9～12行 〔手沢者名〕鋞阿（梵字）（表紙右下） 〔加点等〕合点・訓点あり 〔保存状態〕修理あり 〔識語〕此口傳等者皆當流明德口傳也、一事無誤、仍為後代口実先師仙公和尚所記録也、不可他見者也、予抄書彼草中、為當流之親決、嘉元第三千十二月廿八日記之 智照（云々）

【013 0001 12】

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙中央）三宝院／親玄僧正／御口傳（二） 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕鋞阿 〔装丁〕綴葉（3綴・横半帳） 〔紙数〕16紙32丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.5 22.3 〔行格〕9～11行 〔手沢者名〕鋞阿（梵字）（表紙右下） 〔加点等〕訓点あり 押紙あり

【013 0001 13】

〔外題〕仙芥集 後七日私記〔付勸修寺日記／抄之〕 〔角書〕〔表紙中央〕後七日雜日記／付勸修寺日記／抄之 〔表紙中央右〕四卷内 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿〔筆跡推定〕 〔装丁〕綴葉〔1綴・横半帳〕 〔紙数〕11紙22丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.6 23.0 〔行格〕8～13行 〔加點等〕合點・訓点あり 〔識語〕正應五年三月廿六日書了、以了上人口傳記之、定濟僧正參後七日事、三ヶ度乍三度伴僧也、仍委存子細御ス、然間以彼口傳記之也云々、定仙滿六十一度聖天供勤之、一度息災コマ勤之云々、

【013 0001 14】

〔外題〕仙芥集 〔角書〕〔表紙中央〕後七日／西酉／并師傳 〔表紙右上〕一交了 〔表紙右下〕四卷内 〔表紙右〕両日記注文 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿〔筆跡推定〕 〔装丁〕綴葉〔1綴・横半帳〕 〔紙数〕8紙16丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.4 22.3 〔行格〕9～12行 〔加點等〕合點・訓点あり 〔保存状態〕修理済 〔識語〕〔3ウ〕正應五年四月五日記之了、定仙〔7ウ〕正應五年四月五日記之了、定仙 〔奥〕正應五年三月卅日記之了、定仙滿六十云々

【013 0001 15】

〔外題〕仙芥集 〔角書〕〔表紙中央〕後七日私抄／付西酉勸修寺記之／太元法少々記之〔初在之〕 〔表紙中央右〕四卷之内 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿〔筆跡推定〕 〔装丁〕綴葉〔1綴・横半帳〕 〔紙数〕11紙22丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.6 22.9 〔行格〕9～13行 〔加點等〕合點・訓点あり 〔保存状態〕修理済 〔識語〕〔3才〕正応五年二月廿五日記之定仙



【013 0001 16】

〔外題〕仙芥集（勸修寺） 五秘密 〔角書〕〔表紙裏〕五秘密法私抄（表紙中央）五秘密（表紙左外題下）五之内 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕6紙12丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.6 22.2 〔行格〕11～12行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加点等〕合点・訓点 〔保存状態〕修理済

【013 0001 17】

〔外題〕□□□（仙芥集）（勸修寺） 〔角書〕〔表紙裏〕太元明王（勸修寺付諸尊法并十七卷抄記之）（表紙中央）大元明王／諸尊法／□（十）七卷抄記之 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕8紙16丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.7 21.8 〔行格〕11～13行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加点等〕合点・訓点あり、壇挿図あり 〔保存状態〕修理済

【013 0001 18】

〔外題〕仙芥集（勸修寺） 〔角書〕（表紙中央）求聞持法口傳（表紙左外題下）五之内 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕10紙20丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.6 22.1 〔行格〕11～13行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加点等〕合点・訓点あり、挿図あり 〔保存状態〕修理済 〔識語〕（15才）正應二年十二月比、於願行上人奉受之畢、定仙（16才）正應二年十二月十八日

記之、定仙

【013 0001 19】

〔外題〕仙芥集（勸修寺） 〔角書〕（表紙中央）金剛夜叉／烏芻沙摩／正觀音／七星如意輪／不空羂索／白衣／二臂如意輪／耶輸多羅法／准胝（表紙左外題下）五之内  
〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕9紙18丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.6 22.4 〔行格〕11～13行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加點等〕合點・訓点あり 〔保存状態〕修理済

【013 0001 20】

〔外題〕仙芥集 後七日記 〔角書〕（表紙中央）後七日記（勸修寺／付此筆者宝慶記之）（表紙中央下）四卷抄 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿（筆跡推定）  
〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕8紙16丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.7 22.8 〔行格〕11～15行 〔加點等〕合點・訓点あり 〔保存状態〕修理済 〔識語〕（14才）正應五年四月廿二日、奉對了上人記之也、定仙滿六十（奥）同廿四日、以了上人説記之了、定仙御判

【013 0001 21】

〔外題〕仙芥集 金剛界口傳 〔角書〕（表紙中央）金剛界口傳 〔本文残存状態〕完全  
〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉（2綴・横半帳） 〔紙数〕9紙18丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.5

222 〔行格〕11～12行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加點等〕合點・訓点あり 〔保存状態〕修理済〔識語〕建治三年二月五日記了、定仙 一交了

【013 0001 22】

〔外題〕仙芥集 胎藏界口傳 〔角書〕（表紙中央）胎藏界口傳 〔本文残存状态〕完全  
〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕6紙12丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14:5  
223 〔行格〕10～12行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加點等〕合點・訓点あり 〔保存状态〕修理済 〔識語〕一交了

【013 0001 23】

〔外題〕仙芥集 〔角書〕三宝院駄都次第口傳／意教上人 〔表紙中央〕両界口傳（并駄都口傳／意教上人） 〔本文残存状态〕完全 〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉（2綴・横半帳） 〔紙数〕10紙20丁  
〔料紙〕楮紙 〔法量〕14:4 22:1 〔行格〕11～12行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加點等〕合點・訓点あり

〔保存状态〕修理済 〔識語〕弘安元年十二月卅日記了、定仙 一交了

【013 0001 24】

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙中央）瑜祇汀私抄 〔本文残存状态〕完全  
〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕5紙10丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14:5

22.6 〔行格〕12、14行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加點等〕梵字・合點・訓點あり  
〔識語〕永仁四年定仙記之、後追少々記加之、但有誤歟、後學可被直之、此汀輒不可與人云々、

【013 0001 25】

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙中央）ho-na（護摩）要抄（表紙見返）指環事／作壇事（付櫛五色）／  
破壇事 〔本文殘存狀態〕完全 〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙數〕6紙12丁  
〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.5 21.8 〔行格〕13、14行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加點  
等〕梵字（真言）・合點・訓點 〔保存狀態〕修理済 〔識語〕正應二年十二月廿八日記之、定仙云々

【013 0001 26】

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙中央）ho-na（護摩）要抄（行海） 〔本文殘存狀態〕完全  
〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙數〕12紙24丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.5  
22.4 〔行格〕12、14行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加點等〕梵字（真言）・合點・訓  
點・挿図・護摩壇図 〔保存狀態〕修理済

【013 0001 27】

〔外題〕仙芥集 ho-na（護摩）私記 〔角書〕（表紙中央）行海 〔本文殘存狀態〕 〔書写者〕釵阿  
〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙數〕7紙14丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.5 22.2 〔行格〕11、  
15行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加點等〕梵字・訓點・挿図・護摩壇図 〔保存狀態〕

修理済

【013 0001 28】

〔外題〕仙芥集御遺告聞書 御遺告聞書 〔角書〕（表紙中央）小野

〔本文残存状態〕 〔書写者〕劔阿（筆跡推定） 〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕8紙16丁

〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.4 22.0 〔行格〕10～13行 〔加点等〕合点・訓点あり 〔保存状態〕修理

済 〔識語〕（表紙右上）一交了（奥）建治四年正月廿六日記之了、金剛佛子定五十六才云々

【013 0001 29】

〔外題〕仙芥集汀行事口傳 〔角書〕（表紙中央）小野 〔本文残存状態〕 〔書写者〕劔阿（筆跡推定）

〔装丁〕綴葉（2綴・横半帳） 〔紙数〕32紙64丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.3 22.4 〔行格〕

9～11行 〔加点等〕合点・訓点・挿図・壇図 〔保存状態〕修理済 〔識語〕（表紙右上）一交了

（2才）正応二年十月十日記之／定仙／御判 （38ウ）正応二年九月廿四日勤行時記之／定仙／御判

（41ウ）永仁二年九月十六日記之／常陸法印説之／定仙記之（奥）書本云、永仁二年九月廿六日書寫之

云々、

【013 0001 30】

〔外題〕仙芥集 〔角書〕金寶鈔聞書／妙鈔聞書／玄秘鈔聞書／汀護摩菩提心論事 〔本文残存状態〕

〔書写者〕劔阿（筆跡推定） 〔装丁〕綴葉（1綴・横半帳） 〔紙数〕8紙16丁 〔料紙〕楮紙 〔法

量〕14.5 22.7 〔行格〕8～12行 〔加點等〕梵字・合点・訓点 〔保存状態〕修理済 〔識語〕(表紙  
右上)一交了 (奥)建治三年八月七日傳受、同八日夜記之了、

【013 0001 31】

〔外題〕(仙芥集) 〔本文残存状態〕前欠 〔書写者〕釵阿(筆跡推定)  
〔装丁〕綴葉(1綴・横半帳) 〔紙数〕3紙6丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.5 22.3 〔行格〕6～  
11行 〔加點等〕梵字・合点・訓点 〔保存状態〕修理済 一交了 〔備考〕裏表紙に「撰十八帖」とあ  
り。(内容)付不動法記之／付台藏次第記之／大法秘法事

【013 0001 32】

〔外題〕(仙芥集) 〔本文残存状態〕零葉 〔書写者〕釵阿(筆跡推定) 〔装丁〕もと綴葉(1綴・横半  
帳) 〔紙数〕1紙 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.3 22.2 〔行格〕11行 〔加點等〕訓点あり 〔保存  
状態〕虫損あり 〔備考〕(内容)護摩(行)事／灑浄香水(加)持事

【参考文献】

『称名寺聖教目録』全三卷、文化庁文化財部美術学芸課 (2006)

大八木隆祥

2012 「定仙攷——称名寺聖教を中心に——」『豊山教学大会紀要』四〇

2013 「二人の覚如——覚如房定仙と成願房覚如——」『豊山教学大会紀要』四一

2014 「定仙について 親玄からの受法、定仙大和尚塔と定禪」『綜佛年報』

『仙芥集』翻刻

今回は枝番一（担当…大八木隆祥）の翻刻である。

[013 0001 01]

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙右上）廿三条内（表紙中央）三宝院／大谷覺俊アサリ／神樂岳長慶／事記之 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕鋤阿 〔装丁〕綴葉

〔紙数〕4紙8丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕14.5 22.2 〔行格〕11行／12行

〔手沢者名〕鋤阿（梵字）（表紙左下） 〔加點〕訓点あり 〔保存状態〕修理済

〔識語〕正應五年正月卅日記之、定仙 一交了、

〔凡例〕

一、略字を含め、原則としてテキストどおりの字により翻刻する。

一、合字は新字による一般的表記に改める。漢数字の略字についても同様である。

一、繰り返し記号について、漢字は「々」、仮名は「ゝ」に統一する。

一、脱字の挿入箇所に記載された小さい丸は○で表記する。その傍に記載されている挿入する文字については、

○の下の（ ）中に記す。

一、文字の接続を示す「」は略す。

一、送り仮名に用いる略字・合字は読み通りの表記に改める。(例) シテ、トモ、コト

〔表紙〕

(右下) 廿三条内 ken a (釵阿)

大谷覚俊アサリ

(中央) 三宝院 神樂岳長慶

事記之

(左上) 仙芥集

〔本文〕

胎藏道場観

付延命院次第<sup>一</sup> 先以

五字<sup>一</sup>布我身<sup>一</sup> 次観

器界<sup>一</sup> 金剛地輪者

我下躰ノ金剛地輪也

次第<sup>三</sup>観<sup>シテ</sup>山ノ頂上<sup>二</sup>有



五色界道<sup>一</sup> 結五種

印<sup>一</sup>畢、 又住定印

為觀、心滿月輪上等<sup>文</sup>

五色界道ノ中央ニ我<sup>カ</sup>

有<sup>シ</sup>心滿月輪<sup>一</sup>上有八

葉蓮花<sup>一</sup>也 有五佛四

菩薩等<sup>一</sup>○我身即本

尊<sup>文</sup> 我身者今所<sup>ロ</sup>

觀<sup>一</sup>本有ノ如來也 即

本尊者修生大日也

本尊即我本尊与

我身無二平等<sup>文</sup>本

有修生不二也 已上

道場觀也 三部字

輪觀、秘密八葉乃

至諸院等皆結誦

本有ノ如來ノ印言<sup>一</sup>也

次結大鉤召印<sup>一</sup>請修

生大日<sup>一</sup>以劔印<sup>一</sup>示坐<sup>ス</sup>

一才<sup>一</sup>

一ウ<sup>一</sup>

是<sup>ハ</sup>前ノ道場觀時我

身中<sup>ニ</sup>觀<sup>シ</sup>本有如来等<sup>一</sup>

置<sup>ク</sup>其ノ座<sup>ニ</sup>勸請<sup>シテ</sup>

全座<sup>一</sup>也本有修生不

二義也 已上道場觀

之今ノ勸請ノ大日<sup>モ</sup>一

切衆生色心実相從

本際以来常是毘

盧遮那平等智心ノ

意也

問我身中不淨也勸請

諸佛<sup>一</sup>令坐身中<sup>一</sup>如何

答以五字<sup>一</sup>布字我身<sup>一</sup>

無不淨義<sup>一</sup>法界道場

也 胎藏意与我身<sup>一</sup>与

諸佛<sup>一</sup>成不二<sup>一</sup>其肝心

也<sup>云</sup> 已上<sup>一</sup>了<sup>一</sup>上人說也

釈云昔意教上人弟子

勝壽房如是<sup>一</sup>口傳<sup>セラル</sup>云<sup>一</sup>

二才<sup>一</sup>

二ウ<sup>一</sup>

了一上人云上ノ西酉ノ水

本<sup>モトニ</sup>尺迦院<sup>トテ</sup>有リ覚

鏡僧都<sup>ト云</sup>定海、大

阿闍梨、行海教授<sup>ス</sup>

其覚鏡ノ流<sup>ニハ</sup>唯用

延命院道場觀<sup>一</sup>也

無<sup>シ用ル</sup>大谷道場觀<sup>一</sup>

事<sup>一</sup>舊日記中ニ実

運已後用大谷道

場觀<sup>一</sup>也<sup>ト見タリ</sup>

私云以五字<sup>一</sup>布字<sup>ス</sup>我身<sup>一</sup>

次觀器界<sup>一</sup>時、金剛

地輪者即我地輪也

了一上人云爾也 与<sup>ト</sup>本

次第ノ心<sup>一</sup>全<sup>ニ</sup>同也 我身

中<sup>ニ</sup>布字<sup>シテ</sup>觀法界

道場<sup>トスレハ</sup>清淨ノ佛

立也 請<sup>シ</sup>入<sup>ル</sup>ニ諸佛<sup>一</sup>無

障碍<sup>一</sup>也<sup>ト</sup> 大谷道場

三才

觀<sup>ヲモ</sup>以本次第心地<sup>一</sup>可  
見合<sup>一</sup>也<sup>ト云</sup>”

大政法印云我五大

遍法界<sup>ト</sup>觀<sup>シテ</sup>其地

輪ノ上<sup>ニ</sup>建立<sup>ス</sup>道場

遍法界故<sup>ニ</sup>必<sup>シモ</sup>不

局身中<sup>一</sup>也<sup>云</sup>”

私云雖不局<sup>一</sup>我身

遍滿<sup>ス</sup>法界<sup>一</sup>仍我身

中<sup>ニ</sup>請入諸佛<sup>一</sup>也

了一上人云秘密八印

尺迦院等皆我本

有本覺佛也結誦

此印言<sup>一</sup>也復以大鉤

召印<sup>一</sup>勸請<sup>シテ</sup>修生

諸佛<sup>一</sup>以劔印<sup>一</sup>示坐

也令坐我身中<sup>ニ</sup>也

其時修性不二<sup>ノ</sup>義也<sup>ト</sup>

云”

三ウ

四オ

(一行空白)

了一上人云我初行時<sub>モ</sub>

用大谷ノ道場觀<sub>一</sub>也

西西大旨爾也唯實

房云各<sub>モ</sub>用大谷道

場觀<sub>一</sub>也 了一上人

云実運已後如是<sub>一</sub>

スル也ト云<sub>〃</sub>

大政法印云我等<sub>ハ</sub>必

不用大谷道場觀亦

不依本次第<sub>一</sub>都<sub>ト</sub>

督<sub>トク</sub>ノ次第ノ道場觀<sub>ヲ</sub>

書出<sub>カキ</sub>シテ是<sub>ヲ</sub>本次第<sub>ニ</sub>ソ

ヘテ用之<sub>一</sub>也仍用

都督次第ノ道場觀<sub>一</sub>

也

私云都督次第ノ道場

觀<sub>ハ</sub>自大谷本<sub>一</sub>少キ

スクナキ也<sub>云</sub><sub>〃</sub>

四ウ<sub>一</sub>

五才<sub>一</sub>

私云大谷道場觀者

誰作耶 了一上人云

下ノ酉酉ニ大谷ト云

處アリ其ノウラノ山ノ

キワニ蓮藏院ト云處

アリ ソコノ根本ノ房

主ニ覺俊阿闍梨ト

云人アリ其ノ人ノ作也

乘印血脈ニ云覺源僧

正弟子覺俊阿闍梨、

号宮阿闍梨ト花山

院ノ御子ニ彈正親王ト

云人ノ息也仍覺源

ニハヲイニシテ而弟子也

明匠也云

問神樂岳ノ式トテ兩界

在之ニ良雅流、用金

界ニ也酉酉ニ在之ニ耶

了一上人云此兩界次第、

五ウ

西酉<sup>ニモ</sup>在之<sup>一</sup>

六才<sup>一</sup>

問神樂岳者何處耶

了一上人云船岳<sup>フナダケ</sup>山ノ邊<sup>ニ</sup>

在之<sup>一</sup>蓮臺野ノカ

夕也 廣澤人也引

血脈<sup>一</sup>可見<sup>一</sup>

西院血脈云

禪定法皇 付法十三人

内、第一法三親王真

舜、第五長慶、

住神樂岳<sup>一</sup> 已上

六ウ<sup>一</sup>

正應五年正月三十日記之

定仙

一交了

七才<sup>一</sup>

